



地域食堂で配付したカレー
(いったんもめん結いの家)

地域の寄り合いの場

結いの家

結いの家とは

結いの家とは、空き家を活用した寄り合いの場や生活支援サービスを話し合って実施する「支え合い拠点」です。肝付町内には、さかど結いの家（内之浦）、おじゃんせ結いの家（新富・前田）、いったんもめん結いの家（波野・有明）、きしたん結いの家（岸良）、そして今回オープンした茶のんけ結いの家（国見・川上）の5つの「結いの家」があります。

特色ある結いのかたち

各地区の結いの家は、ころばん体操などの講座や各サロンの寄り合い、子ども食堂、地域ネット輪トーク会議の場など、たくさんの人に使われています。支え合う形は地域によって様々です。地域の実情を分析し、そこに住む人たちの話し合いによって、結われていきます。

結いの家のロゴ（シンボル）

今年3年1月に結いの家のロゴが完成しました。ロゴは、学校区ごとに作成されており、それぞれ5つずつ地域のシンボルが柄として入っています。

例えば、川上・国見のロゴは、清流・紅葉・川上中・竹灯籠・道隆時跡といった5つのシンボル柄が入っています。色にも配置にもこだわり、色はその地区のイメージカラー、配置は地区の場所とリンクしており、全体で肝付町を表しています。地域の人たちとデザイナーを交えたワークショップを行い作成したロゴは、マスクやネックストラップ、名刺入れなどに使用されています。少しずつ地域に浸透してきています。



▲ 結いの家のロゴ組み合わせバージョン
(実物は地区名は入っていません)



▲ 学校にロゴ入りマスクを贈る
『いったんもめんと結いの会』の皆さん



▲ 地域の人と子どもたちが団子を焼いている様子 (いったんもめん結いの家)



▲ 国見保育園の子どもたちがみんなで作った大きな七夕飾りをプレゼントしに来てくれました。(茶のんけ結いの家)



▲ 看板を見て「何て書いてあるのー??」と興味津々な子どもたち